

令和元年度厚生労働科学研究費補助金  
新興・再興感染症及び予防接種政策推進研究事業  
HPVワクチン接種後に生じた症状に関する診療体制の整備のための研究  
分担研究報告書

HPV ワクチンの本来あるべき姿についての列挙

研究分担者 岡部 信彦 川崎市健康安全研究所 所長

---

研究要旨

HPVワクチンの本来あるべき姿を検証した。現在の国内・国外の評価からして、HPVワクチンはHPV関連がん（ことに子宮頸がん）予防に重要な意義を持ったワクチンであることに変わりがない。HPVワクチンの勧奨接種再開にあたっては、勧奨接種中止当時の状態に戻すのではなく、考慮すべき課題が幾つかあると考えた。

---

A. 研究目的

HPV ワクチンの本来あるべき姿の検証をする。

B. 研究方法

これまで国内外における HPV ワクチン接種後に生じた有害事象に関する疫学調査、子宮頸がんあるいは子宮頸部内皮病変に関する HPV ワクチン接種群・非接種群との比較調査などについて、公表された論文、学会発表等のレビューを行なった。

C. 研究結果

現在の国内・国外の評価からして、HPVワクチンはHPV関連がん（ことに子宮頸がん）予防に重要な意義を持ったワクチンであることに変わりがない。

2019年6月のWHO本部で開催されたWHO GACVS (Global Advisory Committee on Vaccine Safety)委員会、2019年12月に同じくWHO本部で開催された同委員会ならびにVaccine Safety Summitに出席し、HPVワクチンに関する日本の状況の説明、海外における状況の情報収集を行い、より安全なワクチン接種に関する討議などに参加した。

D. 考察

HPVワクチンの勧奨接種再開にあたっては勧奨接種中止当時の状態に戻すのではなく、考慮すべき課題が幾つかあると考えた。また有害事象の一部には、器質性病態によるものである可能性も考え、より安全なワクチンとなることを目指すべきと考えた。

E. 結論

本邦における HPV ワクチンのあり方について、今後も引き続き検討が必要である。

F. 研究発表

1. 論文発表 なし
2. 学会発表 なし

G. 知的財産権の出願・登録状況（予定を含む）

1. 特許取得 なし
2. 実用新案登録 なし
3. その他 なし